

トップメッセージ



経営管理委員会会長

茂・守

代表理事理事長

河野良雄

私たちの使命

農林水産業をしっかりと支えていきます

私たち農林中央金庫の存在意義は、「農林水産業の発展に寄与すること」。この農林中央金庫法の第一条に謳われた、農林水産業のメンバーシップバンクとしての特有の役割は、私たち役職員の一人ひとりが、どのような分野で仕事をしていても忘れてはならない協同組織中央機関としての使命です。当金庫は、その使命を果たしていくため、会員組織の資金運用の担い手としてグローバルな投融資業務を展開する一方で、農林水産業や関連する産業分野に対する良質な金融サービスの提供、地域社会に根ざしたJAバンクやJFマリンバンク（漁協）の金融事業のサポート、森林組合系統の取り組む森林再生事業へのサポート等に取り組んでおります。

協同組織中央機関としての一層の機能発揮

近年、わが国の農林水産業は、高齢化や後継者不足、輸入品の攻勢による価格低迷などから、生産基盤が弱体化し採算も悪化するという、極めて厳しい状況にあります。しかし、その一方で、食品の安全性確保や自給率の向上、自然環境の保全、雇用の受け皿など、様々な機能への期待が高まっており、また、農地の集約化や施

設の共同利用の促進、新たな形態の経営体の出現など、今後の協同組織の事業のあり方に新しい展開を求める動きもさかんになってきています。このような情勢にあって、当金庫が、JAグループ、JFグループ、およびJForestグループ（森林組合系統）と共に果たすべき役割と社会的責任は、一段と大きくなっているものと認識しております。

このため当金庫では、協同組織中央機関として一層の機能を発揮するための業務体制の整備を図り、①JAやJFにおける農業・漁業・生活のメインバンク機能の強化、②当金庫とJA、JF、各連合組織（信農連・信漁連）との連携・補完による農林水産金融の強化、③これらの取組の実効性を高めるための会員組織との人事交流による人材育成、そして④CSR活動を通じた農林水産業・環境・地域社会への貢献事業に取り組んでまいります。

常に原点に立ち返り、農林水産業のフィールドで「現場の声にこたえるCSR活動」を

87年前に当金庫を設立した全国の協同組合組織は、「相互扶助」と「共生」の理念の下、厳しい自然と向き合い、経済や社会の変化に対応し、今日に至るまで一貫して日本の農林水産業の発展に貢献してきました。それ

現場の声にこたえる

食・環境・地域社会に深く関わる
農林水産業をしっかりと支えていくこと。
それが農林中央金庫の使命にほかなりません。

会員との大切な絆

は、農林水産業者を経済的に支援することはもちろん、ふるさとの美しい風景を守り、心のつながる地域のくらしを守ることでもありました。私たちは、こうした協同組織の事業や活動が、経済のみならず、環境や地域社会の持続的発展という、CSR活動の目的とすべき分野に本来的に深く関わりをもつことを誇りに思います。

農林中央金庫のCSR活動は、こうした会員のさまざまな業務やユニークな活動事例を踏まえ、「現場の声」にこたえながら、私たちの原点である農林水産業のフィールドで、業務全般を通じてその振興や地域社会・環境への貢献のために展開してまいります。

会員との大切な絆・・・

それが私たちのCSR活動の源泉

私たち農林中央金庫は、各会員のご協力を得て平成21年3月に実施した大型増資に際して「経営安定化計画」を策定し、この計画に基づき、安定的な収益還元等とともに、協同組織中央機関としての一層の機能発揮に向けて取り組んでいます。

このことは、私たちの機能が会員にとって価値あるものであるか、農林水産業、地域、そして社会の持続可能性に貢献しているか、という命題を常に念頭において業務を行うことに他なりません。

当金庫は、引き続き着実に計画を実行してまいりますとともに、CSR活動につきましても、農林水産業の現場にある会員と相互に連携し、協同組織のグループ全体で協調して取り組んでいくことが、多くのみなさまのご理解と評価につながっていくものと考えております。当金庫のCSR活動は、こうした会員との「絆」を源泉に、みなさまへの貢献のあり方を考え、社会的な存在意義を確認する、重要なバロメーターとなるものです。

おわりに

以上のような考えから、平成17年3月には「森林再生基金（FRONT80）」を設定し、民有林の再生を目的とした活動への助成を開始しました。また、平成19年度からは、当金庫を含むJAバンクグループが一体となって実施する「JAバンクアグリサポート事業」を立ち上げ、日本の農業・農村に対してこれまで以上に踏み込んだ支援を開始しました。

こうした活動については、みなさまからご意見を賜りながら、さらに意義あるものへと発展させていきたいと考えております。

3回目の発行となります本報告書では、各活動についての「現場の声」をご紹介します、わかりやすいものとなるよう努めたつもりでございます。忌憚のないご意見、ご指導を賜りますよう、よろしくお願いいたします。